

渋沢栄一の三つの「魔」

昨年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公、渋沢栄一にはドラマでも紹介されましたが、渋沢にはこんな信念があったそうです。

渋沢栄一は埼玉の農家から出てきて一橋家に仕える。侍になりたいのですね。ところが、割り当てられたのは勝手番。これでは上の人と話し、認めてもらうチャンスがない。

だが、上の人が毎朝乗馬の訓練をすると聞きつけました。

この時なら話すチャンスがあるということで、渋沢は馬と一緒に走って自分の思いや考えを上の人に話す。毎朝それをやる。

すると、あいつは見どころがあるということで、そこから彼の人生は開けていく。

後年、渋沢を知る人はこんな話しをしたそうです。「渋沢は三つの魔を持っていた。それは**呼吸魔**、**建白魔**、**結合魔**だ。」と、つまり学んだもの、見聞したものをどんどん吸収し、身につけてやまない魔。物事を立案し、企画し、それを建白してやまない魔。人材を発掘し、人を結びつけてやまない魔。

このように普通にやるのではない、大いにやるのでもない。とことん徹底して、事が成るまでやめない。そういう「魔」としか言いようのない情熱、狂気があったのですね。

子育ても一緒です。現代は、すべてネット中心で「とことん」とか「人と交わる」ことが出来ないようです。ベースはそれでよいのですが、最後と人と人の繋がり、突き詰めた情熱こそが成功や自己実現に繋がる事でしょう。

野球の大谷選手、将棋の藤井さんもまさに渋沢栄一のように「3つの魔」を持った若者の様に考えます。

保護者の皆様も自身のお子様の子育ての参考になさって下さい。「三つ子の魂百まで」、幼児期の「今」が肝心です。

理事長